



小惑星探査機はやぶさに寄せる思い再び

はやぶさの母港内之浦で試写会開催

今年4月23日から25日にかけて、内之浦で町民約300人がエキストラとして参加し、撮影された映画「はやぶさ／HAYABUSA」（製作：20世紀フォックス映画）の試写会が9月23日（金）小惑星探査機はやぶさの聖地である内之浦の銀河アリーナで行われました。

上映前には、永野町長や井上潔^{いのうえきよし}プロデューサー、内之浦宇宙空間観測所長を長年務めた的川泰宣^{まとがわやすのり}教授から挨拶がありました。井上潔^{いのうえきよし}プロデューサーは「肝付で上映をするのは緊張する。町民の方々の気持ちを組み入れた映画ができたか責任を感じる」と話されました。

上映では内之浦のロケでのシーンがスクリーンに映し出されると歓声が上がりました。エキストラとして参加し映画を鑑賞した下建振興会の橋本タヅ子さん（73歳）は「川口先生も的川先生も気さくな方ばかりで、内之浦を愛してくださったことを思い出し、一言では言えない感動を味わった」と話し、はやぶさを搭載したM5ロケットの打ち上げを内之浦小学校の近くで見たという坂元振興会の五反田麻矢^{ごたんだまや}さん（19歳）は「地元にいるとロケットを見送るだけで、“おかえり”ということがなくて、皆が“おかえり”と言っていたのが新鮮で、感動して涙が出た。日本の宇宙技術はすごいと思った」と話しました。



舞台あいさつを終えた井上プロデューサー、永野町長、的川教授



スペースサイエンスフェスティバルを開催

映画の試写会に合わせ、9月23日、24日に全国の中高生を対象とし、モデルロケットの開発や競技大会、的川教授による映画では語られなかった小惑星探査機はやぶさの秘話などを盛り込んだ講演が行われ、中高生らが宇宙をテーマに考え、自分たちの未来についても語り合いました。